

実験報告書

社団法人大阪府木材連合会

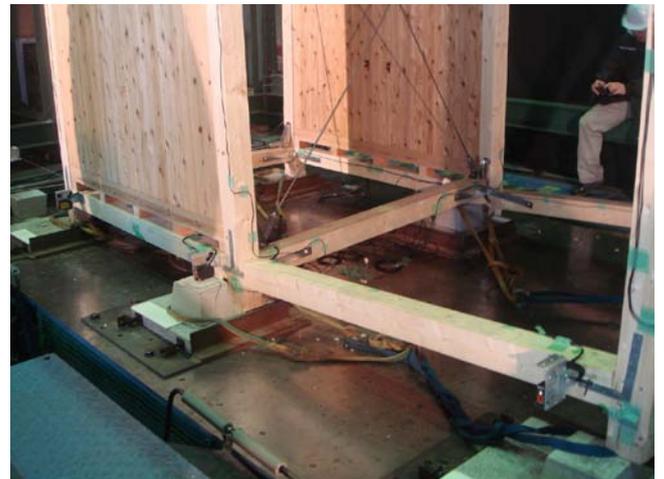
① 基礎のない家における壁柱施工の実証実験 (平成 22 年 12 月 20 日～12 月 28 日)

(1) 基礎のない家における壁柱施工について阪神淡路大震災の 120%で振動実験

実験前



実験後



最後は束石から外れたが壁柱自身に損傷はなく、生存空間は確保できている。

(2) 鋼製束で補強し、阪神淡路大震災の120%で振動実験

1 m間隔で鋼製束を入れて実験



鋼製束の損傷はあったが、束石からずれ落ちることなく、また壁柱自身も損傷はなかった。

② 壁柱の仕上げ（内壁、外壁）に係る実証実験
（平成22年2月7日～2月10日）

内壁

（大壁タイプ） 壁柱に石膏ボードを貼り、クロス仕上げ



（実験後） クロスの一部に割れが発生したが、壁自身の損傷はなかった。



(真壁タイプ) 壁柱にモルタル下塗りのうえ、ジュラク仕上げ



(実験後) ジュラクは剥がれ落ちたが、壁自身の損傷はなかった。



外壁

外壁の改修については既存間柱を活用した上で施工する。



(モルタル) 壁柱にラス貼りのうえ、モルタル仕上げ



(サイディング)

壁柱に構造用合板貼りのうえ、サイディング仕上げ



(実験後)

モルタル、サイディングともに一部の損傷は見られるが、壁自身の損傷はなかった。



筋交いについて

この実験では「筋交い」はどの程度耐力があるかも実証したが、結果は下記のとおり最終的には金物等の接合面は外れてしまい、筋交いは折れてしまった。

